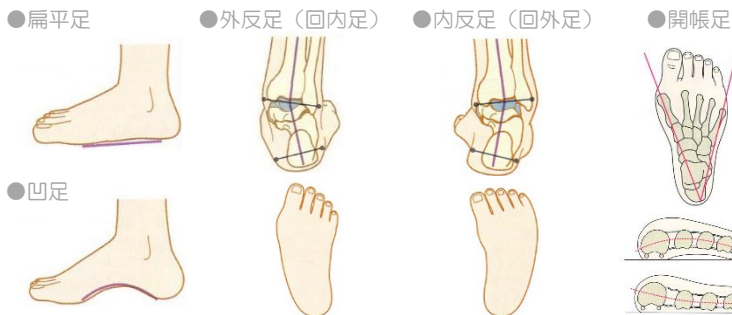


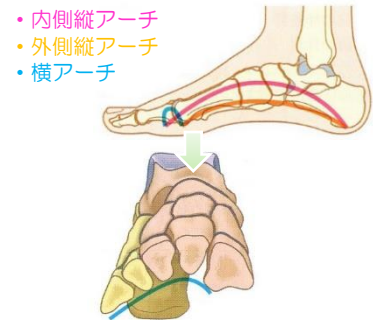
### 3. 中足部から後足部の有痛性疾患

#### 参考. 扁平足障害

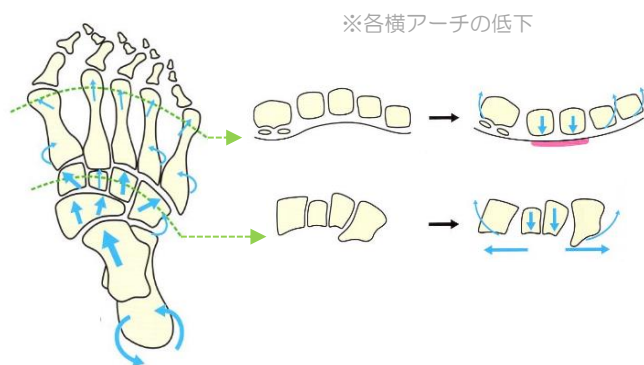
##### 1-代表的な足部変形



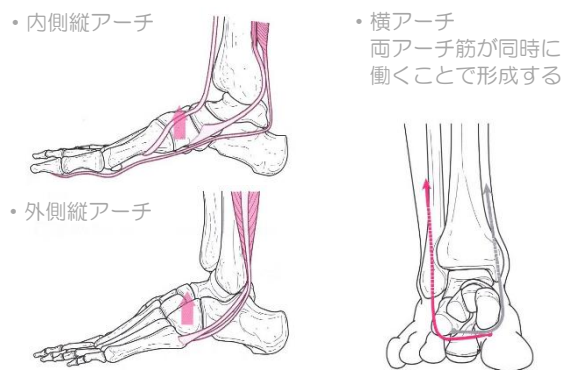
##### 2-足のアーチ構造



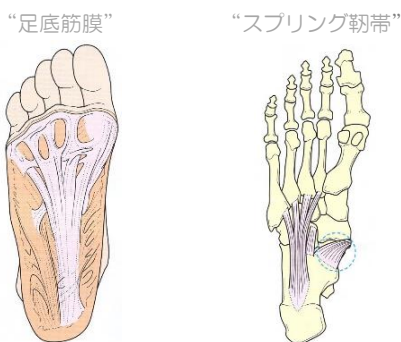
##### 3-アーチの変形機序



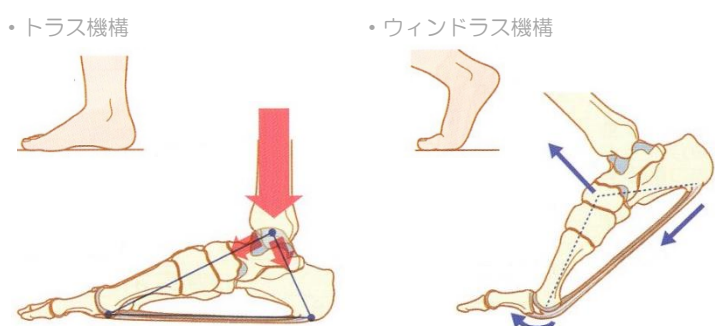
##### 4-アーチの形成筋



##### 5-アーチの足底支持機構

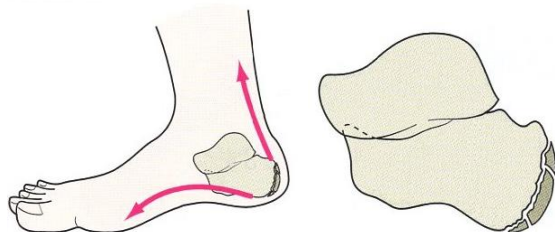


##### 6-アーチの機能



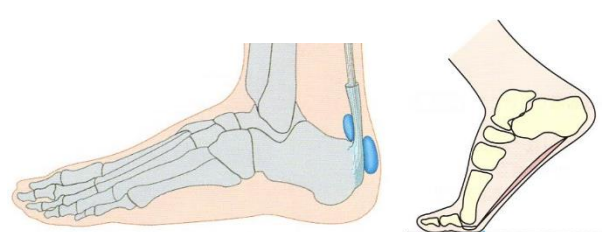
#### a. セーバー病 (Sever)

●踵骨々端症/予後良好/10歳前後男児



#### b. アキレス腱滑液包炎

●アキレス腱周囲に存在する滑液包の炎症

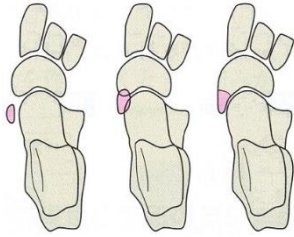


a.セーバー病	特徴	●踵骨の骨端症	●好発年齢：→
	症状	●疼痛は運動制限で改善する	●予 後：→
b.アキレス腱滑液包炎	特徴	●アキレス腱踵骨付着部に好発	●好 発：→                      に多く両側性
	症状	●圧痛や運動痛を認める	●急性期：発赤腫脹 / 慢性期：硬結化

### c. 有痛性外脛骨

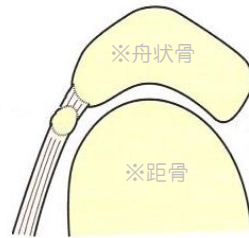
#### 1-外脛骨の諸型

- 舟状骨内側の過剰骨。  
10~15歳女性に好発。



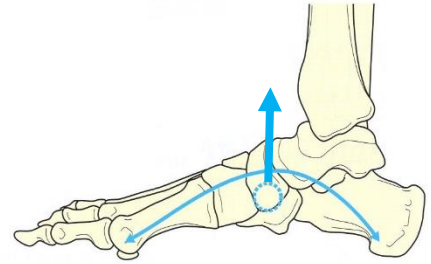
#### 2-後脛骨筋との関係

- 後脛骨筋の付着部である



#### 3-内側縦アーチとの関係

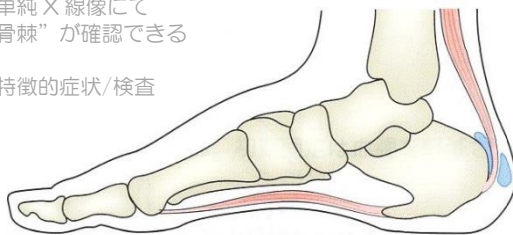
- 外反扁平足では後脛骨筋の牽引力が増大



### d. 踵骨棘 及び 足底腱膜炎

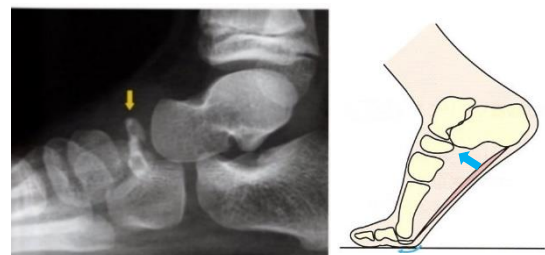
- 踵骨隆起内側突起の周囲に疼痛を生じる疾患。足底筋膜の緊張が要因。中年以降に好発する。

- 単純X線像にて“骨棘”が確認できる
- 特徴的の症状/検査



### e. 第1ケーラー病

- 舟状骨に発生する骨端症、3~7歳男児に好発。単純X線像で圧潰像が見られる。

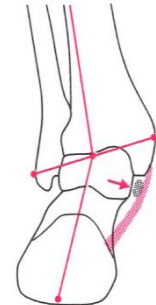
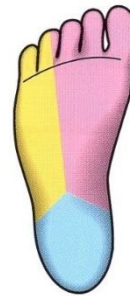
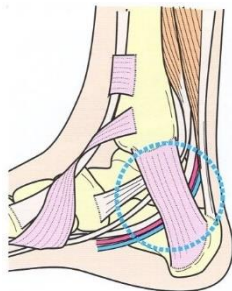


### f. 足根管症候群

- 内果後方、屈筋支帯の絞扼性神経障害。足底の知覚障害が主訴。
- 外傷/ガングリオン/足根骨癒合症/回内足などに起因。

- 脛骨神経は下腿後面から足底を支配

- 外内反足と屈筋支帯の圧力変化



c. 有痛性外脛骨	特徴	●病 態：舟状骨内側の→	●足の過剰骨で最も多い。
	症状	●好 発：→	●外反扁平足との関係が強い。
d. 足底筋膜炎 (踵骨棘)	特徴	●足底筋膜が付着する→	に疼痛を生じる疾患。
	発生機序	●中年以降に多い。	●単純X線像で→
	症状	●ランニングなどで、足底筋膜に繰り返しの負荷が加わり発症する。	を認める。
e. 第1ケーラー病	特徴	●足底腱膜炎：内側アーチの圧痛	●有痛性踵骨棘：付着部に圧痛
	症状	●朝の第一歩の疼痛が特徴である。	●疼痛誘発方法：→
f. 足根管症候群	特徴	●：→	に生じる骨端症。 ●好 発：→
	症状	●単純X線像にて硬化像と圧潰を認める。	
f. 足根管症候群	特徴	●内果後方の→	で生じる→
	症状	●足底部の知覚異常や足趾の屈曲力低下。	●足根管を叩くとチネル徴候出現

ご清聴ありがとうございます。(^^) /

## 第26回 練習問題

問題1 セーバー病はどの骨の骨端症か。

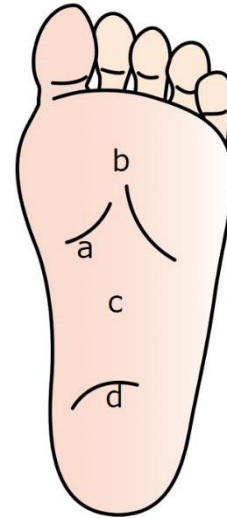
1. 大腿骨頭
2. 脛骨内顆
3. 舟状骨
4. 踵骨

問題2 有痛性外脛骨はどの骨の過剰骨か。

1. 踵骨
2. 距骨
3. 舟状骨
4. 立方骨

問題3 踵骨棘は右のイラストにて、どの部位に圧痛があるか。

1. a
2. b
3. c
4. d



問題4 第1ケーラー病はどの骨の骨端症か。

1. 踵骨
2. 舟状骨
3. 脛骨内顆
4. 第2中足骨頭

問題5 足根管症候群はどの末梢神経の障害か。

1. 坐骨神経
2. 総腓骨神経
3. 深腓骨神経
4. 浅腓骨神経
5. 脛骨神経

参考) a セーバー病	特徴⇒10歳前後男子 症状⇒良好
b アキレス腱滑液包炎	特徴⇒女性
c 有痛性外脛骨	特徴⇒過剰骨 ⇒10~15歳女性
d 足底腱膜炎(踵骨棘)	特徴⇒踵骨隆起内側突起 ⇒骨棘 衆生⇒足趾の背屈
e 第1ケーラー病	特徴⇒舟状骨 ⇒3~7歳男子
f 足根管症候群	特徴⇒屈筋支帯 ⇒脛骨神経

9-9 踵骨  
 乙-セ 踵骨  
 ヤ-8 踵骨  
 8-乙 踵骨  
 ヤ-1 踵骨